

自彊会だより

変わらぬ伝統と文化

今も

第21号



とし
共に樹齢を重ねていく。



祝 創立九十周年 一層の飛躍を願う！



同窓会長 草川 雄二（高11回）

五月は別名皐月と言いますが、さつきの「さ」は耕すという意味があるそうです。田を耕し種をまくシーズンからきています。色々のものが耕すという行為を通して育って行くことを思うと、五月という季節は伸び行く未来を感じさせる一カ月です。

会員の皆様にはご健勝にてつつがなくお過ごしでしょうかお伺い致します。また、平素は同窓会運営にご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

昨年は、会報『自彊会だより』の冊子への改編、会員名簿の改訂、九十周年記念事業計画、同窓会会則の改正等に取り組みました。

会報に關しましては、多くの会員諸氏から『冊子』へされたのは『正解だ！』『読み易く、一気に読んでしまった』『昔をなつかしみ嬉しかった』等々有難いお言葉を頂戴致しました。

会則の改正につきましては、同窓会活動が活発化した今、会則自体が現状の活動の実態にそぐわない、また、理解しにくい条項、文言、内容という事で現実に沿った会

則に改正致しました。ご努力頂きました会報編集委員会・会則改正委員会の皆さんには心からお礼を申し上げます。

愈々、本年明石高等学校は節目の学校創立九十周年を迎えます。

大正十二年四月に明石市立明石中学校として産声をあげて以来大正、昭和、平成の御世を経て、目出度く歴史の一ページを刻みます。大正十二年、当時の教育界の重鎮であられた初代山内校長の提唱された建学の精神『自彊不息』と不滅の校訓『自治・協同・創造』を歴代校長先生と共に恩師諸先生方が教育に実践され、その薫陶を受けた諸先輩方が母校の発展を願い、幾多の困難を乗り越え歴史を積み重ねてこられ、後輩たちがその伝統を途切れること無く、現代も連綿と受け継いでいるからこそ今の明石高等学校の歴史と伝統があるのだと思います。

創立九十周年記念行事実行委員会は、事業につきまして会を重ねて検討して参りました。ここに計画致しました九十周年事業の内容をお知らせ致します。

※二十四年度に同窓会員の五年毎の名簿の改訂が成されました。一層の会員間の親

睦に役立てばと期待する次第です。

※五月二十四日(金)には校門を入った左手、資料館横の明中祠へこの十年間に亡くなられた同窓会員約一千名を合祀致します。

※五月二十五日(土)記念式典・記念講演(十三時三十分) 於 明石市民会館大ホール

講師 藤原崇起氏(阪神電気鉄道株式会社代表取締役社長・明石高校二十二回生)

※五月二十五日(土)記念祝賀会(十七時) 於 シーサイドホテル舞子ビラ神戸

※創立九十周年の集大成である通史(記念誌)の編纂。

※オーストラリア・モーリー高校との友好三十周年記念モニュメントの設置。

※美術科創立三十周年記念展覧会

於 兵庫県民会館 (八月)

於 東京表参道 アートスペースリビナ (十一月)

美術科設置三十周年記念展覧会を、自彊会東京支部のご支援を頂き東京都内に於いても開催致します。記念式典、記念講演、祝賀会、美術展に沢山の会員の皆様のご来場をお待ちしております。

学校創立九十周年は明石高校の歴史の一ページだと思えます。この九十年の歴史と伝統を礎に明石高校の一層の飛躍発展を願って止みません。同窓会もまた意義ある節目を期して、一層の飛躍をしたいと思えます。最後に、会員の皆様のご健勝を祈念いたします。

もくじ

会長あいさつ	1
新校長あいさつ・同窓会入会あいさつ	2
平成25年度総会のご案内 90周年記念行事・祝賀会のご案内 若葉のうた	3
自彊不息	4・5
ようこそ先輩	6・7
学年同窓会交歓	8・13
支部だより・部活動OB会	14・15
明中・明高ゴルフ会 東京同窓会	16
自彊セミナー報告	17
人事異動	18・19
進路状況	20
大学合格者の声	21
部活動報告	22・24
会則の改定	25・26
お悔み・事務局より・役員表	27
美術展案内・編集後記	28

創立90周年を機に

母校のさらなる発展へ

第22代校長 濱田浩嗣(高25回)



自彊会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝にお過ごしのこととお喜び申し上げます。

明石海峡を眼下に望む自彊が丘に再び帰らせていただきました。

この度、母校の明高校長を拝命し、星陵高校から着任しました濱田浩嗣です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

創立90周年という記念すべき年に勤務できますことを、大変嬉しく思いますとともに、誇りを感じています。微力ながら明高の発展のために全力で邁進する覚悟ですので、同窓の皆様にはよろしくご指導ご支援の程お願い申し上げます。

さて、平成20年度から明石学区において複数志願選抜入試制度が導入されたことを契機として、地域の皆様から「明高の生徒が良くなってきた」という話を聞かれています。最近の先輩校長の皆様は、「伝統の明高を復活させよう」「新生明高にしよう」というスローガンのもと、教

職員、同窓会、PTA、地域の皆様とともに一丸となって様々な教育活動に取り組んでこられました。特に、県下で唯一の美術科で特色ある学びに加え、特色選抜入試において設置した生命科学探究類型の成果をさらに発展させ、医学・薬学などの生命科学分野及び理学・工学・農学系に興味があり、将来その分野のリーダーとして社会に貢献できる人材を育成しようとする理数探究類型に改編するなど、特色ある学校づくりを進めてこられた成果であると思っています。

伝統の建学の精神である「自彊不息」のもと、高い志を持ち、社会に貢献できる人材の育成に全力を注ぎ、明石市内を中心に中学生や保護者から、行きたい学校、学びたい学校、魅力ある学校となるよう、一層の取り組みを進める所存ですので、重ねてご支援をお願い申し上げます。

最後になりますが、5月25日(土)開催の創立90周年記念式典及び祝賀会には、大勢の同窓の先輩・後輩の皆様にご参加いただき、盛大にお祝いしたくご案内申し上げます。

同窓会入会あいさつ

櫻井拳人(高65回)

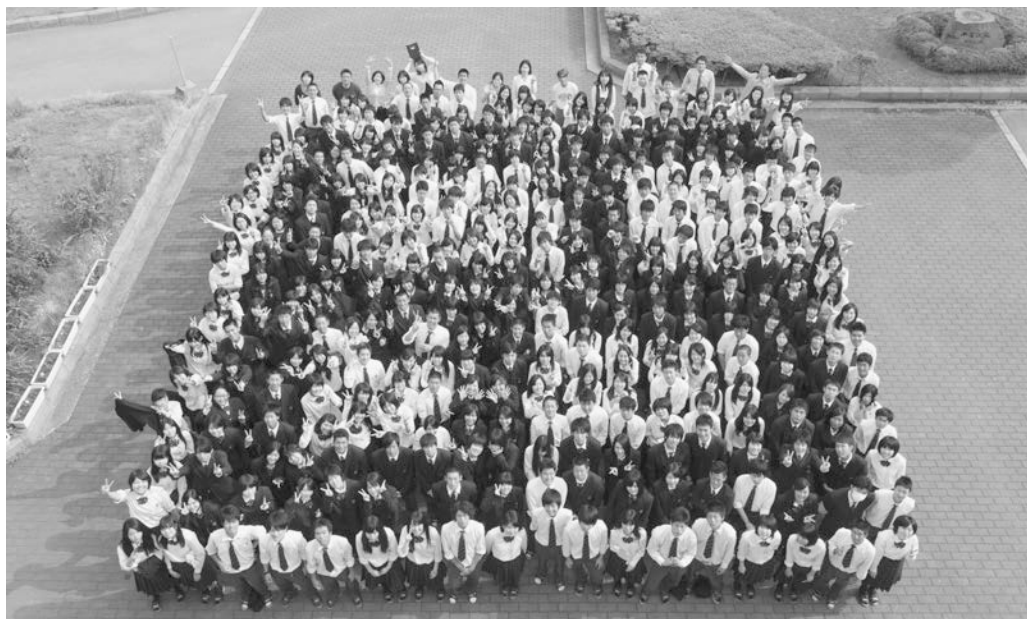
私たち明石高校第65回生は、3月1日に卒業し、自彊会へ入会

させていただきました。私たちが明石高校で過ごした3年間は人生の一つの宝物となりました。文武両道を実行し、さらには行事や生活面など、最後まで手を抜かず、やってこれたのではないかと思います。私の一番の思い出は、体育大会です。私は負けず嫌いであったので、絶対に勝ちたいと思います。また皆も勝ちたいと思います、2年の時には1位、2位、3位も独占するという記録を残しました。私はこのような行事によって何かに対して全力でやり抜く大切さや仲間意識の大切さを学びました。

これからは皆それぞれの道へ進んで行くことになり、不安と期待でいっぱいですが、この65回生の最高の仲間達と切磋琢

磨できたこと、そして明高卒業生であることに誇りを持ち、一歩ずつ進んでいきたいと思っています。

これからも日々努力していきたいと思っていますので、ご指導ご鞭撻いただきますようよろしくお願い致します。



祝 明石中学校・明石高等学校創立90周年

学校創立90周年記念行事一覧

1 記念式典・祝賀会

期日：平成25年5月25日(土)

場所：記念式典・記念講演＝明石市民会館

祝賀会＝舞子ビラ神戸

時間：式典13時30分～(受付13時)

祝賀会17時～(受付16時)

2 明中祠への合祀

初代校長山内佐太郎先生の「大家族主義」の教えを守り、この10年間に逝去が確認された方のご氏名を記載した名簿を明中祠へお納め、ご冥福をお祈りします。

期日：平成25年5月24日(金)

時間：10時30分～

3 記念美術展

学校創立90周年と美術科創立30周年を記念して、兵庫・東京の両会場にて下記の日程で行います。是非、足をお運び下さい。

兵庫会場：兵庫県民会館

(8月27日～9月1日)

東京会場：アートスペース・リビナ表参道ビル

(11月12日～17日)

— 詳細は28頁に —

大正12年4月、「明石市立明石中学校」として開校された母校は、戦前・戦後を通して多くの人材を輩出し、今年で創立90年を迎えます。

母校ではこの機に、生徒一人一人が明高生としての「自覚と誇り」を身に付け、社会に貢献できる有為な人材を育てるべく、努力されています。「学習」は無論、「部活動」など集団活動にも力が注がれており、伝統の「自彊不息」の精神は脈々と継承されています。

その甲斐あって、近年、地域における信頼と評価は、高まっていると感じられます。入試制度の変革によって、希望する学校に入学できる可能性が高まったことから、明石学区における明高の競争倍率は、2年連続で第一位となっています。

学校、PTA、明石高校教育振興会に同窓会が加わり、四者で「90周年記念行事実行委員会」が組織され、実行委員長に同窓会長草川雄二氏が就任されて約2年、入念な準備がされています。記念行事は左の一覧表にまとめてありますので、ご覧下さい。

明石市民会館での記念式典の申込みは必要ありません。座席に余裕もありますので、ご出席下さい。また、引き続き行われます記念講演は、明高22回生で、阪神電鉄社長の藤原崇起氏に「人口と鉄道」の演題でお願いしております。是非、記念講演も多くの方に聴いていただきたいと願っております。

祝賀会のご案内

90周年記念祝賀会への参加をご希望される方は、会報に同封の「90周年用振込用紙」に必要事項を記入のうえ、5月8日までに郵便局で会費五千円を振り込んで下さい。

当日は受付の混雑が予想されますので、会費を事前に振り込むことで申込とさせていただきます。卒業生に多数参加いただき、盛大な祝宴となることを願っています。

尚、お手数ですが、後日同窓会よりお送りします「確認ハガキ」を当日はご持参いただくようお願いいたします。

平成25年度総会のご案内

左記にありますように、定例総会を開催いたします。多数ご出席頂き、忌憚のないご意見をお聞かせ下さい。

記

期日 平成25年6月22日(土)
時間 午前10時30分(受付は10時より)
場所 明石高等学校内 資料館
次第 ①会長あいさつ ②議案審議
③質疑応答 ④その他

本年は懇親会の年ではありません。来年は明中17・18回生の皆さんを迎え懇親会と米寿を祝う会を行なう予定となっております。

若葉のうた

最近のニュースで嬉しい話題はけっこうあるが、中でも山中伸弥京都大学教授のノーベル医学生理学賞授賞のニュースは本当に嬉しかった。ヒトES細胞から始まって、iPS細胞の開発へと研究を進めていく山中教授には、ひとときわ期待と希望の思いを持っていたからだ。

医学の進歩は「日進月歩」だとよく言われるが、その思いを強くしてくれたニュースでもあった。難病といわれ、治らないとされていた病気にも治療の可能性が高まっている今日である。さらに、実用化が進んでゆくことを願ってやまない。

しかし、一方で科学技術の進歩が、人の生活を危くすることが起きていることも確かだ。人が生み出したものが、人を危険に落とし入れることのない使い方をしなければ、と考える日々でもある。

歴史を学ぶと、人間のいろいろな発明・発見により、どんなに人類が発展したかわかるのだが、それらが、人類滅亡への道につながらない「かしこさ」が求められてきたし、また「かしこく」実践されてきたからこそ今日があると思うのだが、どうだろう。

住みにくく、また、将来の夢など、もちにくい時代になったとはいえ、今、この自彊が丘で学んでいる後輩たちには、「かしこく」未来を背負って欲しいと若葉はうたうのである。

(幸)

自彊不息

このコーナーは、各界で活躍されている方、自分の夢を追い続ける個性的な方を紹介するものです。

旅行は大好きだが、船旅はしたことがない。中学の修学旅行の帰路、瀬戸内海を通ったぐらいだ。飛行機、新幹線でせかせかと動き回っている、ということか。クルーズ(客船での旅)会社を立ち上げた女性起業家と聞き、新宿南口近くの本社を訪問した。(聞き手は竹内信六副会長)

海からの風景は格別 船旅で心身を癒して

クルーズプラネット代表取締役会長

澤田(旧姓苗村)まゆみさん(高24回)



【会社の概要をご紹介下さい】

H・I・S・S・(Highest International Standards) という旅行会社を「存知だ」と思います。その関連グループ企業の一つです。

【どのような事業をやっておられるのですか】

クルージング、クルーズ客船、海外旅行業、旅行業を扱っています。贅沢なイメージのある船旅をリーズナブルな価格で提供するカジュアルクルーズから豪華客船の旅まで世界中のクルーズを用意しています。

【他にH・I・S・S・の国内のグループ企業は：】

ハウステンボス(株)、
オリエントツアー、
(株)欧州エキスプレス、
(株)ジャパンホリデー
トラベル(東瀛假日
<とうえいかにち>)
などです。



【設立されたのはいつですか】

平成11年3月、一人でスタッフ一名を採用して立ち上げました。クルーズ好きが高じて会社を作ってしまった。

【従業員は何人ぐらいで、ご苦労は：】

55人ほどで、平均年齢は30歳くらいです。どの企業もそうでしょうが、「人」が大切です。人材をいかに育てていくかが大事です。

【船旅の魅力は、こういったところにあるのでしょうか】

海からの風景が素敵です。陸からの眺めとは視界が違います。船に荷物を積み込めば、揚げ降ろしがないので体が楽です。船は夜も動いているので効率的です。食事代、イベント代など、すべてが入った値段なので、他の旅行に比べれば割安

です。こういったところから、熟年層に人気があります。日頃、時間に追われている皆様は是非、ゆったりとした非日常の世界を楽しんでいただきたいです。これから横浜(神戸)港発着の船旅を増やしたいと思います。7万トン級の豪華客船で5泊6日くらいのコースです。例えば、今年4月29日、横浜発着で6泊7日の済州島、長崎、鳥羽に寄港(99800円)と5月5日、横浜発着の同コース(69800円)、そして5月12日神戸港発・横浜港帰着の八泊九日クルーズも新たに運航します。

【これまでで、一番苦労されたことは何でしょう】

平成13年9月11日、ニューヨークで発生した同時爆発テロでしょうか。6000人を超す人命が奪われました。平成14年11月には中国広東省でSARS(ウイルス)により引き起こされる新種の感染症)が発生しました。トロント、シンガポール、ハノイ、香港、台湾、山西省などに広がりました。平成16年11月にはアイスランドでヨーロッパ最大の氷河で火山噴火が起きました。その後旅行客が激減しました。資金も底をついて、どうしようか、といった時期でした。世界の平和、保健・衛生の対処、自然の驚異を痛切に感じた時期でした。世界の平和、安全があってこそその業種です。

【趣味をお聞かせ下さい】

軽井沢の追分に山荘を持っています。気分転換を兼ねた避暑とガーデニングと畑での野菜づくりを楽しんでいます。それと仕事柄、年3〜4回は乗船する機会に恵まれクルージングを楽しんでいます。

【高校時代の思い出をお話下さい】

一、二年生の時はソフトテニス部に入っていました。二年の途中で西宮市に転居しましたので、帰宅に時間がかかるため止めました。スチュワードスになったかったので全日空を受験、卒業式の時には合格が決まっていた。英語はそれほど得意だったわけではないのですよ。英語の先生は高田美知子教諭でした。古文の黒川五郎先生には可愛がっていただきました。修学旅行は初めての信州方面でした。自分たちでプランを立て上高地で泊まりました。自主性が尊重され伸び伸びと楽しかったですね。

【スチュワードスになられてからは：】

3年半、乗務して辞め、22歳の時にロンドンに留学し、サウスワークカレッジに学びました。

【日頃、心がけておられることは：】

「いつも元気で、明るく」ですね。それと、自然の摂理を大切にしています。

【後輩たちに何かアドバイスを】

パワー、元氣、ヤル気を大切にして下さい。そうすれば、道は必ず拓けます。

☆取材を終えて

非常にテキパキとした方で、立ち居、振る舞いはスチュワードス時代に身につけられたようだ。他にもビル会社と投資会社の社長をされている。24回生は平成25年に60歳になられるので、澤田さんにプランニングしていただき、神戸港発や横浜港発の還暦クルージングを楽しまれたらいかがでしょう。

夢は叶えられるもの チャンスの神様の前髪を掴む

ミリナー
木下 睦 海 さん (高38回)

平成24年11月、久しぶりにロンドン在住の木下睦海さんからメールが届く。彼女は美術科で3年間高校生活を共にしたクラスメイト。12月に少し長いめの休暇を取り、里帰りをするのでこの機に、世界で活躍したいと夢を持つ後輩達に自分の経験を生かして何かお手伝いできないかと。私の提案がきっかけで、私達は彼女の実家近くにある中山寺で会い、話を聞く事となった。取材なのかプチ同窓会なのか、私達の会話を楽しんで下さい。

＊ 鷺森＝鷺 (聞き手は鷺森智美常任理事)
木下＝木



鷺 「むっちゃ、久しぶり。全然変わんないね。」
木 「トミーこそ。スーツ？だからすっかりお母さんしてるって感じ。もしかして会うのは卒業以来かな。」

鷺 「今日は、いろんな話を聞かせて下さいって事でお願ひします(笑)。まず、イギリスに行こうって決めたのは？」
木 「日本と違い、この国は帽子需要があるし、私の好きなデザイナーはイギリス人が多かったから。イギリスでは結婚式を初めとする公の場での正装には必ず帽子を被るし、多くの競馬観戦には男女共に帽子着用が基本だし、特に、毎年6月に行われるロイヤルファミリーも参加する『ロイヤル・アスコット(競馬)』では、正装で帽子は必須。着飾って観戦するの

が常識で、最新のデザインをセレブや女性競い合う『レディースデー』という日もあるしね。」



「王室でも、今年の女王陛下戴冠50周年のお祝いのイベントがあつて孫娘のユージンが被る帽子の飾りを制作する仕事が終わってきたよ。あと、私が制作した帽子がロイヤル・アスコットの公式ポスターに2年連続で使用されたの。イギリスで帽子作りをする人にとって一番嬉しい仕事だから、街でそのポスターを見た時は、感無量になったよ。」

鷺 「すごいな、それって日本人初？改めて伺いますね、ミリナー(帽子職人)になろうと思ったきっかけは？」
木 「学生の時に初めて海外旅行でヨーロッパに行った時にふと、帽子っていいなあと思った気がする。その後、たまたま雑誌に掲載されていた広告に『木の帽子』を被るモデルが起用されていたのを見て、こんな奇抜なデザインの帽子もあるんだ！

そんな帽子をビジネスにできる人が世界の何処かにいるのだと衝撃を受けた事もあったりして帽子がますます好きになり、デザイン会社に勤めていたけど人生後悔したくないと思い、帽子屋になれるよう頑張ってみよう、て。」彼女の話に熱が入るのを感じる瞬間だった。

鷺 「帽子ブランド『ステイブン・ジョーンズ』で働く事になった経緯は？」
木 「最初、違う某有名デザイナーの所で见习いとして働いたけど、一年後、そこで

学ぶ事はもうないなと思ったのと、ほかの事情もあってそこを辞めました。そして英語学校に通いながら自力で就活したよ。帽子屋の求人なんて滅多にないから、1軒1軒自分の足で帽子屋を訪ねては、私の作品が載った雑誌や写真と履歴書を片手に売り込みに行ったよ。なかなか見つからなくて大変だったそんな頃、弟の結婚式に参列するためすでに日本へ帰る航空券を買ってあったので、親からこの帰国までに仕事が決まっていなかったら日本に帰って来い！って期限も切れ、ちょうど日本に飛ぶ1週間前のギリギリで仕事が決まった！というのが今の職場。」

鷺 「運命の出会いパートIIやね。むっちゃんが作る帽子って個性的で斬新さが際立つけど、どうやって出来上がってくるの？材料とかは？」
木 「材料は何でも使うよ。まず紙や仮縫いの材料からデザインのトワレ(サンプル)をおこすのが最初かな。私がいる部署はオートクチュールで一点物がほとんど。ボス(ステイブン・ジョーンズ氏)はどんな依頼でもうけて絶対NOと言わないから私達はボスのわがままを聞くのが大変。デザイン画や写真がある時もあるから大変。私達は独創性や発想の豊かさを要求されるの。特に色の感覚は日本では考えられないくらい繊細だからセンスが問われる。」

鷺 「奥が深いね。なんかそれって、一つ一つの帽子に思



いが詰まってそうだね。」
木 「そうね。だからお客様が帽子を手にした時に喜んでいただけるように愛情持った制作するように心掛けてる。」
鷺 「後輩に何か一言お願いします。」
木 「今の時代、夢や希望を持ちにくいかもしれない。しかしもし、すでに夢や希望があるならばそれに向かって努力をし、エネルギーを注いで欲しい。なぜなら夢は漠然としたものでなく、現実的目標に変える事が可能だからです。私はその一例。初めどうやったら、特殊な帽子を作る仕事に就けるのか、なんのコネもなく、ましてや海外で今の仕事に就けたのか？まだネットも主流でない頃ですから全く何のトリックもないのです。もし現在目標や夢がないとすれば、日々の生活の中で自分は一体何が好きなのだろうか、何をしていたら自分がイキイキと幸せな心を持てるのだろうか、色々な事に今まで以上に目を向けて考えたり本を読んで発見して欲しい。きっと何かが見つかると思います。後輩の皆さん、すぐ諦める事なく、是非前向きにどんどん挑戦して下さい。」

☆取材を終えて

2時間半があつたという間に感じた彼女の楽しいトークに、私も手描き友禅職人だった頃の自分を思い出す。ジョーンズ氏の信頼も厚く、マーク・ジェイコブスやビバウエストウッド、コムデギャルソン、ケイト・モスといった大物デザイナー達やセレブなどからのオーダーも含め相当の数を制作している。世界に羽ばたく友人を誇りに思う。運命の『木の帽子』は彼女が働くその場所から生まれたものだった。

ようこそ先輩

平成24年7月13日、総合的学習の時間に中部講堂でお二人の先輩を招き、1年生を対象に講演会を開催した。「ようこそ先輩!!」と題した恒例の催しで、先輩の話を聞いて、将来の進路選択の参考にしてもらおう、というもの。生徒たちは、人生経験豊かな先輩の話に耳を傾けながら、メモをとっていた。

また、12月19日、インスパイア・ハイスクール指導の中の特別講義として、2年生の理系、生命科学探究類型の生徒達に、東日本大震災から、もうすぐ2年になるのを前に「放射線」「放射能」などについて、専門会社社長から解説していただいた。

さらに、平成25年2月20日、21日の2日間、音楽を選択している1年生を対象に明中学校の歌唱を明中卒業生に指導していただいた。

東日本大震災後、医療活動 を続ける明高OBも

明石市医師会前会長 現顧問

日下 孝明氏(高13回)

中部講堂を訪れるのは、平成18年11月、当時、広島大学病院特別顧問でアイオワ大学名誉教授の木村健氏(高8回生)が、生徒に講演されたのを聴きに来て以来のこと。同じ医師として、私が講演することになるのは：



「地域医療を支えるー保健・医療・福祉にかかわる人へのアドバイスー」と題して、できるだけ平易に話を進めるように心がけた。私は幼少の頃、未舗装の道をスクーターに乗り、埃だらけになって往診する父の後ろ姿を見て、自然に医師の道へ進んだ。皆さんは阪神・淡路大震災の時はまだ生まれていないが、私は検死で、圧死した人のおびただしい数を見た。市医師会に明高OBが5人い

る。そのうちの1人は、東日本大震災後、今も石巻、気仙沼で医療活動をしている。30年以内に東南海地震が起こるだろう、といわれている。その時は、まず生きのびることを考えて欲しい。生きのびたら人助けをして欲しい。今後、人口は減少、高齢者が増える。あと30年は若い皆さんの力が必要だ。女性は子供をたくさん産んで欲しい。それが活力ある日本の姿につながる。



現在の中部講堂

「この仕事が好き」 を再確認

神戸新聞デイリースポーツ編集局
大阪報道部次長

山崎 小弓さん(高36回)

校門をくぐると、懐かしさがこみ上げてきた。母校を訪れるのは卒業以来初め

で。あまり変わっていない風景にうれしくなった。

この中部講堂で私が講演するなんて：と、信じられないような気持ちで演台に立たせてもらった。テーマは、『スポーツ新聞の現場』。「アトラクタ五輪取材したときは：」などと経験談を話しながら、ふと、目の前の1年生たちが、その年に生まれていることに気づいた。私たちの頃とは違う制服を着た彼らにとってかなりの「昔話」だっただろうが、しっかりとメモを取りながら聞いてくれた。今回話をするに当たり、なぜこの仕事を選んだのか、やりがいを感じるのは：などと掘り下げて考えるうち、つくづく、自分はこの仕事が好きなんだなあと再確認させられた。この日は現役生だけでなく、同窓会の先輩方ともゆっくりとお話しする機会に恵まれた。有意義な時間をありがとうございました。

(肩書きは講演当時)



「放射線を測定しよう」

(株)千代田テクノル社長

細田 敏和氏(高14回)

24年12月19日、中部講堂で、細田敏和・千代田テクノル社長(高14回)が2年生の理系、生命科学探究類型の生徒達に「放射線、放射能とその利用」の演題で講演した。インスパイア・ハイスクール指導の中の特別講義。

東日本大震災のあと、放射能に対する関心が非常に高い中、細田社長は「放射線」「放射能」「放射性物質」の違いを説明。放射線の人体への影響や放射線によるDNA損傷などをパワーポイントをj使ってわかりやすく解説した。



会場には、いろいろな種類の測定機器が並べられた。休憩時間を利用して「身の回りの放射線を測ってみよう」との呼びかけに生徒達は、機器を手に取り興味深く測定していた。

84歳、高らかに歌いあげる

同窓会常任理事

安藤 勉氏(中18回)

1年生に明中校歌を指導

テノール独唱会を、これまで数回開催している常任理事の安藤勉さん(中18回)が25年2月20、21日の2日間、音楽を選択している1年生14人に「明石中学校校歌」を音楽室で指導した。

安藤さんは「84歳です。もうすぐ85になります」と、自己紹介した後、「オー・ソレ・ミオ」を朗々と歌いあげると、生

徒たちは顔を見合わせ「ホー」と感心していた。

作詞者の芳賀矢一、作曲家の大和田愛羅の人物像を紹介し、

当時の明石海峡や淡路の島の情景を説明した後、「自治」「協同」「創造」の精神を歌った1、2、3番を鈴木龍仁教諭のピアノ伴奏に合わせ、力強い歌声で生徒たちをリードし合唱した。



この後、安藤さんは教科書にも紹介されている「カロ・ミオ・ベン(いとしいひとよ)」と「この道」も独唱した。

4回目のテノール独唱会で21曲

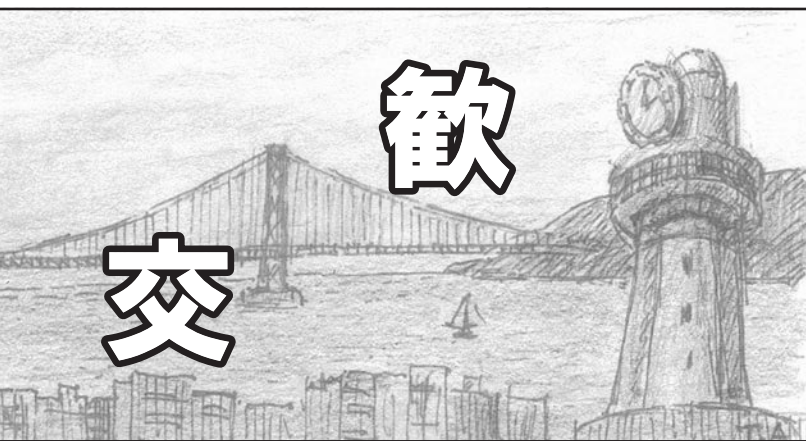
これに先立ち安藤さんは平成24年11月17日、明石市西部市民会館で「テノール独唱会」を開催された。満84歳だが、日本の抒情歌・歌曲、イタリアの歌曲、カンツォーネ、アリアを、2部構成でアンコールも含め21曲を力強く高らかに歌い

上げた。ほぼ満員の客席から驚きに似た賞賛の拍手が送られた。

安藤さんは、これまで喜寿、傘寿などの節目に3回、リサイタルを開き、今回が4回目。森山俊雄・島根大学名誉教授の発声法を習って歌うようになってから、「以前より高音が出やすくなった」という。足を前後に軽く開き、腹の中から鼻に抜けるような高音を、両こぶしを握り締め、時には背伸びし、体を反らして歌い上げた。曲の解説や、「次は米寿でしゅうか」と、ユーモラスなトークも交え、休憩を挟み約2時間のステージをこなした。休憩時間には「元氣やな」「とても84とは思えん」「健康の秘訣は何やろ」など感心の声が上がっていた。

安藤さんは絵画にも造詣が深く、ステージには80号の大作「メイプルシロップ工場のハロウィン飾り(カナダ)」「(水彩画)がイーゼルに立て掛けられ、会場を彩っていた。





イラスト・安藤 勉 (中18回)

中学十五・十六回生

米寿を祝福



平成24年度懇親会・米寿を祝う会が5月26日、グリーンヒルホテル明石で開かれ約80人が出席した。2年に一度の催しで、米寿を迎えられた先輩たちを同窓会が招待し、祝福するのが目的。

今回は中15回生(住所判明者51人)、中16回生(同60人)に案内状を送付したところ、15回の安立(あんりゅう)昇氏、今井親義氏、岡田猛氏、菱川文博氏、牧田安夫氏と16回の蓬葉文人氏、米澤次郎氏の7人が出席された。出席を楽しみにされながら、当日、体調が思わしくなく急遽、欠席の連絡が入った方もあった。



米寿の方々は記念撮影の後、ひな壇に登壇してもらい、お一人ずつ紹介したあと、鷺森智美常任理事から、長寿の秘訣などの直撃インタビューを受け、各人にブーケが贈られた。また、お祝いの清酒

「自彊不息」、校章や校舎の絵柄が入った煎餅も渡された。

今回の懇親会には加古川東高同窓会「清流会」から副会長ら3人のご出席をいただき、交流を深めた。



中学二十回

杉山 清 巳

明石中学校として最後の卒業生として平成24年10月27日に今年も元気で同窓会を催しました。段々と参加者も少なくなってきましたが42名に案内を出し14名が参加してくれました。年齢も82〜84歳となり来年も元気で集まろうと約束しました。全員で国歌、明中学校歌、戦時中に学徒動員があり、その時の歌を全員で大きな

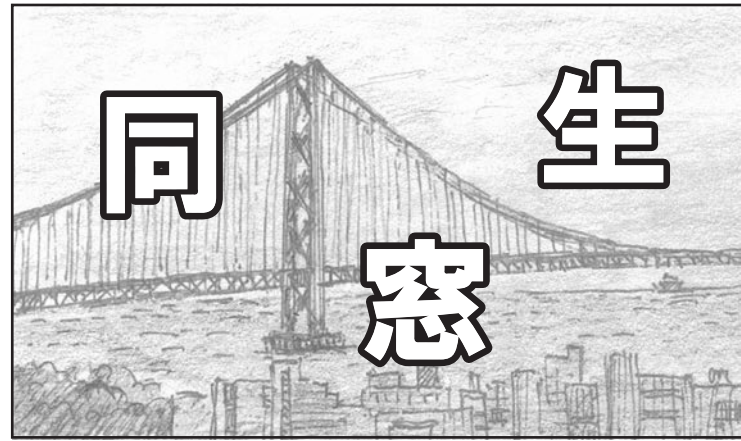


声で歌いました。少し胸がジーンとなりました。

あとは楽しく酒を酌み交わし時間もアツという間にたちました。

明中明高会のゴルフも毎年行われていますが、今年は明中卒業生は私一人になり、皆から明高会ゴルフと名前が変わらぬよう頑張れと云われています。

今年も山崎小先多、海渡貞一君の計報もありましたが同窓会のお世話をする者として、あと10年くらいは元気で考えます。



高校二回

松本ヤス



平成24年11月3日
卒業以来21回目の同
期会をお堀端のグリー
ンヒルホテル明石で
開きました。今回は
平成23年11月3日文
化功労者に推挙され
た同期の片桐洋一さ
んのお祝いも兼ねて開催し、片桐さんは
多忙な中を出席され、宮中での式典の様
子や皇后陛下より親しくお声をかけられ

たこと
など話
してく
ださい
ました。
机を並
べた友
達の中
からこ
んな名
誉ある
方を出
し、皆
で喜び
合いま
した。



出席者は年齢のせいかわ出不可、入院中、
或いは悲しいかな鬼籍に入られた方など
で、一挙に10人以上減り、24人と少なく
なりました。しかし、出席者は皆想像以
上に元気で、60年以上も前に遡って賑や
かに語らい、お互いの近況報告をして楽
しいひと時を過ごしました。

終わりに恒例の校歌をうたい、続いて
浅田博さんが、片桐さんの榮譽を祝し、
併せてみんなの健康、長寿を願って、三、
三、七拍子を全員の手拍子と共に面白く
舞われ、皆大いに盛り上がり、会を終え
ることができました。尚、本部からの補
助をいただきました。ありがとうございました。

高校六回

密谷和正



私達6回生は、平成24年10月1日、岡
本光弘校長先生、森本正之先生をお迎え
して、グリーンヒルホテル明石で、喜寿
を祝った記念同窓会を開催しました。台
風の接近で開催が危ぶまれましたが、台
風の方が急いで通り過ぎてくれ、出席予



定者全員77のいい顔がそろい、会は高德
雄三君の、いつもの名司会で始まりまし
た。校長先生からは明高の現況を伺い、
皆は昔話や健康に関する話で持ち切り、
楽しい時を過ごしました。
二次会もカラオケで盛り上がり、特に校
長先生が最後迄お付き合ひ下さったのに
は、大感激でした。健康に気を付け、つ
つがなく傘寿を迎え再会しようと誓って
散会しました。

高校八回

中山直樹

平成24年10月26日に高校八回生同窓会をグリーンヒルホテル明石で開催いたしました。出席者は63名でした。

8回生同窓会は隔年毎に担当幹事組を持ち回りで開催しています(今回はG組)。中部講堂竣工後最初の卒業式をした私達も、既に卒業して56年が過ぎ、後期高齢者に到達の歳になりました。そこで今回は特に簡素ながらも充実した同窓会を計画しました。先生方の招待なし、集合写真なし、二次会なし、同窓会名簿なし(出席者名簿のみ)、校歌・応援歌なし、とないないづくしの運営でした。クラス毎のテーブル配置で、いつもながらの賑わった楽しい雰囲気の中でのあっという間の三時間でした。

時の話題としてはロンドンオリンピックの戦果や、ノーベル賞受章の山中伸弥教授が同級生の教え子であることなど。またいつまでもこの同窓会を続けるのが良いかについても相談し、目安として80歳、出席者数が卒業生の10%(38名)程度以上までとし、その後はお互いが個人的に適宜集まろうとのことになりました。

二年後の次回は喜寿記念同窓会、担当がA組となります。



在学時建設中だった中部講堂



高校十二回

佐々木 伸一郎

全員が古希を迎え終えた平成24年6月14日、ホテルキャッスルプラザで同期の会を開催しました。森本正之、小倉隆興両先生は79名の生徒と見分けにくいほど若々しく、お元気でした。万歳!

土日には出席しにくい人もいたろうと今回は初めて平日に開催しました。が、出席者の顔ぶれは大差なしでした。

また、今回は久しぶりに全員写真を撮りました。年をとった写真はホロ苦いものですが、次回の予習に役立つでしょう。オシャベリの邪魔をしないように、いつもは何も特別な趣向は凝らしませんが、今回はふと思いついて、出席者の中から10人を選び、二分間スピーチをしてもらいました。

ここ数年全く仕事をせず「黄金の日々」を送っている。愛犬を「クウ」(空)と名づけた。手術が成功して不整脈がおさまった。仕事の行き帰りに母校の校歌、応援歌を歌いながら自転車のペダルを漕いだ。同期の会の案内状をいつも失くすなどなど。そして、最後は同期の会をテーマに即興の川柳を一句披露してもらって、皆で大笑い。

偉くなった人ばかりにならぬよう、組



も偏らないように気をつけました。皆の前で話すのが初めてという人が大半でしたが、それが却って新鮮だったらしく、皆オシャベリを止めて聞いてくれました。幹事としても一安心、次回もやってくれと言ってくれた会員もいました。最後に名曲「明石高校応援歌」を高らかに歌って、お開きになりました。

高校十四回

寺田 三郎

梅雨の季節ですが、お天気に恵まれた6月23日、グリーンヒルホテル明石にて高校14回生同窓会を行いました。今年は昭和87年です。昭和37年に卒業した我々は、卒業50周年と古希を迎える大いに記念すべき同窓会となり、80名の同窓生が集いました。

学年理事には、新しく谷川博男君が就任しました。三浦宏前学年理事は明高同窓会の顧問に就任となりました。

全員参加の記念写真を撮り、開宴です。司会は谷川理事が務めました。まず今は亡き恩師と同期の方々に黙祷を捧げ、ご冥福を祈りました。ついで高知県から参加の北雄二郎君の音頭で乾杯し、宴会の始まりです。懇談・食事もすすみアルコールも入ったところで、参加者全員の紹介があり、浦辺郁二君の指揮のもと校歌・応援歌を大合唱し、気分は一気に高校時代にタイムスリップとなりました。

楽しく和気藹々の中で、宴会の終わりに当たり、全員で腕や肩を組み大きな一つの輪になって高校三年生(舟木一夫)を再び大合唱し、3時間の宴会は瞬く間に過ぎてしまい、司会・運営を谷口卓海君に交代、同じ会場で二次会に移りました。

カラオケと懇談会が入り混じり、この人たちは皆元気で、本当に古希なのか疑いたくなる場面もありました。「古希の次は喜寿それから米寿やな」自彊の精神を持ち続けられ、卒寿同窓会も夢ではない。そう感じるくらいパワーをもらった古希同窓会でした。

瞬く間に2時間経過し、午後五時閉会となり次回再会を約しながら、三次会に向かう人、家路に向かう人、三々五々会場を後にしました。



高校十七回

石井 嘉門

平成24年6月10日、舞子ビラで明高17回生同窓会が開催された。参加者数は92名で前回の還暦記念同窓会のときよりも多くの参加者を得た。恩師の衣川先生におかれては、ご不自由なお体にもかかわらず、二次会の席にお出まし戴いた。

今回は、一応に年金受給資格を得た年齢に達し、現役の仕事から離れた人も多く、そのことが五年前のときよりも参加者が多くなった理由のひとつではないかと推察される。

三年生のときのクラス単位でテーブルを囲むことにし、各テーブルでは、それぞれに近況報告を行うなど、かなり盛り上がった会合となった。さすがに、孫のことあるいは病気のことなど、この年齢ゆえの話題も多かったように思う。在学時にはほとんど会話もなかった人でも旧知のように話ができるというのも、同窓会ならではのということかもしれない。

同じ場所での二次会ということもあってか、ほとんどの参加者がそのまま残り、終始和気あいあいのまま、またの再会を約束して散会した。



高校十八回

藤 本 金 平

平成24年11月23日(勤労感謝の日)に西明石のホテルキャッスルプラザで高校18回生(昭和41年卒)の第3回同窓会を開催しました。5年前に還暦を記念して開催してから久し振りに顔を合わせる楽しい出会いとなりました。

卒業時の在籍人数は570余名で出席は112名です。出席率はほぼ20%で、先生方5名と合わせて総勢117名の賑やかな催しとなりました。

開催は午後3時からでしたが、2時過ぎにはぼちぼち集まりだしました。会場前に第1回、第2回の同窓会集合写真の幅1mを超す大きなもの2枚と、関東地区にいる人たちが東京で開いた同窓会の写真を張り出していましたので、開始までの間写真を見ながら懐かしそうに会話が弾んでいました。

司会は長年放送界に携わってきた長谷川良彦君です。佐々木卓郎君の開会の挨拶のあと、まず物故者への黙祷からはじまりました。65歳にもなると残念なことに判っているだけで、もう30数名の方がこの世を去られています。次に先生方一人一人の紹介と、少しお話を頂きました。どの先生も大変お元気ではつらつとされ

ており、当時の若かったお姿を思い出させていただきました。

続いて各クラスごとの紹介が有りました。校歌斉唱では壇上に元応援団と合唱部の方たちが上がり、その音頭で明中校歌、応援歌まで続けて3曲の大合唱があり、久し振りに大きな声を張り上げて歌いました。



次回には皆が少しでも元気なうちにといいことで、3年後にまた会う事を約束し

て無事お開きとなりました。皆様楽しい時間をありがとうございました。

司会の長谷川君、食事も満足に取れずすみません。ありがとうございました。

尚、2次会は明石駅周辺を中心に沢山の人が夜中まで楽しく過ごしました。

高校二十九回

小 椋 利 雄

第4回学年同窓会を、平成24年7月21日、グリーンヒルホテル明石にて開催しました。当日80名が参加、恩師は、井手仁先生、佐伯勝先生、前田英雄先生が出席された。

石丸秀隆君の司会で会はスタート、市会で活躍している大西洋紀君の乾杯で宴会の始まりとなりました。

いろいろ歓談がはずみました、その中で黒崎千春君よりクラブ活動をやろうという提案がありかなりの同窓生が参加されていると聞いています。折角の29回生ですから、この縁を大切にしていきたいものだと思います。

テーブル席も3年のクラス分けてでなく1年、2年のときという提案もあり次回は、反映したいと思います。

また、6年後の還暦をターゲットに置

くために、第5回は、3年後(2015年)に実施します。元気で会いましょう。ご意見・提案いただければ幸いです。最後に、いろいろお手伝いいただいた方に感謝いたします。



高校三十三回

戎 義 弘

高校卒業30年記念同窓会

平成24年9月29日にグリーンヒルホテル明石を会場にして高校33回生の学年同窓会を開催しました。当日は同窓生105名と秋里先生、小倉先生、中島先生、尾崎先生にも出席をしていただき、全部で109名の出席となりました。3年前に初めて学年同窓会を開催し、その時に108名集まったのですが、今回も前回同様の参加人数となり皆が高校時代に戻って大変盛り上がりしました。しかし100名以上の参加者の中には3年間同じクラスにもなっていないくて、初めましてという風な挨拶をする同級生も見られました(笑)

今回は各組に1名の幹事を決めて準備をすすめてきましたが、1組の今田学志君に代表幹事を務めてもらいスムーズな運営ができました。次回は2組の幹事に代表幹事をお願いしますので宜しくお願います。

最後の校歌を歌う場面では瑞宝小綬章を授けられた中島寛先生が突然壇上に上がり50歳になった私たちにエールを送るサプライズもありました。次回は5年後の55歳の年に開催する予定です。前回

今回に都合が合わなくて参加できなかった33回生の皆さんも次回は是非会いましょう！



63回生 成人記念同窓会

元学年主任
西 尾 和 則

平成25年3月2日、138名の63回生と12人の担任団が中部講堂で再会し、市内でも明石高校だけが行っているユニークな行事「明石高校成人記念同窓会」が行われました。木下淳一先生の「ジュンちゃんです」から始まり、菊池先生の「大学2年の20歳を境に、もてない男から、モテキに変わる」というありえないような自分の青春断片(ばなし)。それにつられて次々と、青春時代の告白のほなしが豪華に語られ、記念写真タイム15分をはさんでの12人の先生が次々と繰り出す一時間を越えるしゃれたスピーチは、まるで「豪華真昼のディナーショー」でした。生徒も先生たちも、酔いしれた会、その場に居て得をした会でした。海外留学や、大学の部活の合宿、遠距離在住などで参加できなかった卒業生の皆さんは本当に残念でした。また集う機会にこの損を取り戻してください。

もちろんこの会のもっとも大切なことは、友人とのふれあいでしょう。笑顔で肩を抱き合い、笑い、語り合う20歳達の姿は、まぶしく、うらやましくもさえあります

た。生涯の最も価値ある財産である友人関係を、明石高校という素晴らしい場所がはぐくんでくれたことを感謝しましょう。そして他の高校にない、このあたたかな励ましの行事を明石高校の特徴として自慢し、宣伝してください。

これから後もまた再会する機会をつくりましょう。同窓会幹事の人、今度は君たちの誰かが音頭をとってください。

これからの人生は変化に富んでいます。結婚、出産と子育て、生涯独身、離婚、再婚とわかれ、職場も世界津々浦々にどんどんとわかれて広がっている現代。同窓を集めることが難しい、だから逆に、このような大きな集まりを持つことは、価値をもつとおもいます。



支部だより

美術科支部

「美術科創立30周年を迎えて」

鷺 森 智 美 (高38回)



美術科棟にて 昭和59年～

昭和58年4月に美術科が設置されてから30年を迎える事となりました。入学した当初は、まだ美術科棟もなく暗いプレハブ校舎で、デッサンの授業を受けていたことを思い出します。

同窓会美術科支部は、自彊会の下部組織として平成4年に発足し、会員相互の

親睦を図るとともに、美術科の発展に寄与することを目的として、母校支援となるよう活動をしてきました。同窓会展の開催も活動のひとつで、今年で5回目となります。



昭和59年当初、棟前にて 第1回美術科作品展

支部会員も1,000名以上となり、海外や全国でも活躍する方々も増えてきましたので、平成20年度から関東地域担当の運営委員もおき、より幅広く活動していけるように致しました。

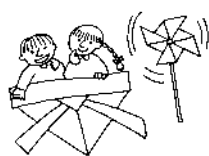
この度の同窓会展は自彊会からのご支援も頂き、兵庫県立明石高等学校創立90周年記念事業として、美術科創立30周年

平成25年度同窓会美術科支部 総会のご案内

下記にありますように、平成25年度同窓会美術科支部総会を、兵庫会場美術展会期中に開催いたしますので、是非ご出席いただきますようお願いいたします。

記

期日 平成25年 9月1日(日)
時間 午前10時30分より
(受付は午前10時15分から)
場所 兵庫県民会館 9階 会議室(901室)



記念美術展を、東京会場と兵庫会場において開催することとなりました。初めての試みで戸惑いながらの取り組みでしたが、先輩方の温かい励ましや後輩達の協力のもと、無事皆さまに報告できますこと、心から感謝申しあげ、さらなる御支持ご支援を賜ります様よろしくお願い申し上げます。美術科ならではの個性豊かな作品です。ぜひ、ご高覧下さいますようご案内申し上げます。

明石市役所支部

「今年は趣向を変えて
中華レストランで」

会長 大 西 和 彦 (高24回)

平成25年2月13日、アスパシア明石の中華料理店「上海飯店」に於いて明石市役所自彊会の懇親会を開催いたしました。例年、ホテルで実施しておりました懇親会でしたが、本年度は趣向を変えて中華レストランでの開催いたしました。



この時期は送別会、総会のピークの時期で、ホテルでの宴会の多い時節柄、たまには中華、それも自分の好きな物を注文できるメニューバイキング方式もいい

のではないかと企画し、また、アスピアの業績にも多少は貢献できるかなという思いでの実施となりました。

総会形式でなく格調高くはないけれど、和気藹々とまさしくアットホームな雰囲気だと、名前も総会でなく懇親会ということで手作り感満載でしたが、おかげ様で和やかなひと時を過ごすことができました。

また、役員につきましても、世代交代をいたしました。皆様のおかげをもちまして楽しく活動をさせていただきました旧役員一同、この紙面をお借りしてお礼申し上げます。今後は前田豊会長をはじめとする若い世代による企画運営がされますので、活力あふれた会のもとに、世代を超えて、明石市役所自彊会会員の集っている姿を思い浮かべつつ報告とさせていただきます。

バスケットボール部OB会 活動報告

和田 直 樹 (高28回)

早いもので中断していたOB会活動を再開し始めてから10年が経ちました。振り返って見れば紆余曲折はありましたが、おおむね盛況であったと思っています。その間、現役諸君の戦績は…、いや今は

言いますまい。いつかまた来るであろう栄光の日々を期待して、OB会は今年も頑張りまっせー！



さて24年度も例年通り3月19日に祝卒業兼OB会歓迎食事を、5月3日にOB総会・現役親睦会をOB現役合わせて70名で、8月12日にカーニバルをOB現役合わせて60名が集まって開催いたしました。また毎週土曜日は明高体育館で午

後六時よりOBの練習も行っています。参加者大歓迎ですぞ！そして23年度に引き続き24年度も明石市内の中学生対象バスケットボールクリニックを8月5日に開催しました。市内の中学生が48人と、今回は明高の現役男女も参加してくれました。講師は我が校OBの55回生で全日本候補選手の正中岳城君ほかパナソニックの全日本クラスを含む六名の皆さんが暑い中頑張ってくれました。また今回はパナソニックのトレーナーに中学校指導者向け熱中症対策の講義をしてもらい、受講者より有意義であったとの評価をいただきました。前回に引き続き中学生達もいい目標が出来たと思います。来たる有望新人！

硬式野球部OB会「明高クラブ」 活動報告

大塚 弘 一 (高15回)

明石中学・明石高校硬式野球部OB会「明高クラブ」と称し、高2回高木名誉会長／高13回石橋会長の下、物故者、連絡先不明を除く実質約70名の組織で運

営しております。大正13年創部以来、春の選抜大会8回／夏の選手権大会6回出場場の伝統ある部ですが昭和62年以降甲子園より遠ざかっており、OB会も古豪復活をバックアップする為に練習指導を初めとして、講演会／講習会の開催。公式戦ユニフォーム／用具類の寄贈、更に応援活発化の為、OBの入場料負担など、物心両面での支援、環境整備に努めております。

平成24年は春季大会兵庫県代表として近畿大会に出場し、智弁和歌山を破りましたが、大阪桐蔭高校には惜敗しました。夏季大会は4回戦武庫荘総合高校に、秋季大会は2回戦で神戸国際大付に今一步の処で涙を飲んでおります。

毎年5月の最終土曜日に母校資料館をお借りして総会を開催し、会員同士の親睦、情報交換を行っております。また、携帯電話による応援サイトも設けており、練習試合を含めて全試合経過、過去の戦績も判る様にしてあります。



明中・明高ゴルフ会が 『同好会補助規定』に 認定されました

向井 勝夫 (高5回)

平成23年度に自彊会で制定された「同好会補助規定」に、明中・明高ゴルフ会(以下、当ゴルフ会)が平成24年10月にはじめて適用認定されました。当規定適用の第一号です。

当ゴルフ会は、昨年秋に81回目のゴルフコンペ開催という長い歴史のある会ですが、従来、自彊会とは繋がりがなく活動してきました。今回、このような繋がりが認められたということは、当ゴルフ会にとっては勿論のことですが、自彊会としても「同窓の者が集い、趣味等を通じて友好を深め母校発展に寄与する」(同規定の趣旨)という活動の幅を広げる運動の一環としても大いに意義のあることと思われれます。

当ゴルフ会は、「ゴルフを通じて会員相互の親睦と技術の向上をはかり、健康にてプレーする」(会則)ことを目的に、現在、明石中学校・明石高等学校を卒業した原則60歳以上の同窓生が集まり、毎年4月・10月に垂水ゴルフ倶楽部においてコンペを開催しています。プレーは毎回ダブルペリア方式でのストロークプレーでこない、組み合わせは希望により同

学年の者同志で一緒にプレーをするといったことも取り入れ、和気藹々と楽しく親睦を深めています。

これまではこのような内容での開催でしたが、このたび、自彊会から補助が受けられるようになったことを契機に、「60歳以上」という会員の年齢制限を会則から削除し、年齢に関係なく参加できるようにになりました。また、卒業生でなくても教職員の方も参加可能となりました。

会の運営は、最初の頃から長期に亘り、中学20回の故竹田良輔会長と高校4回の伊庭春作幹事のお二人がお世話されてこられました。こんにち私達が明中・明高の旗のもとに楽しくプレー出来ますのも、ひとえにお二人のご尽力のおかげであります。現在の役員は、会長に伊庭春作氏、副会長に小山孝治氏(高10回)、常任幹事に藤原福正氏(高13回)の三氏で運営されています。ただし、コンペ当日は前回優勝者が当日幹事としてパーティの司会などの世話をすることになっています。

ゴルフが好きな同窓生で、まだ一度も当ゴルフ会に参加されていない方がおられましたら、年齢制限も無くなりましただので、どうぞお気軽に参加されます様左記電話(FAX)でお申し込み下さい。
078・912・7864 藤原福正



高校十三回 関東同窓会

春 成 秀 樹 (高13回)

山内校長ゆかりの佐倉に集う

明高第13回卒業生関東地区同窓会を平成24年10月6日、千葉県佐倉市で開催しました。遠くタイから、山梨や東京の西から佐倉に21名(男14、女7)が集合し、夏のような暑い日でしたが、楽しい一日をすごしました。

マイクロバスを利用し、佐倉高校交流記念館↓堀田家屋敷↓順天堂記念館を見学、昼食をレストランのシェ・ムラでとり、川村記念美術館を見学したあと、解散しました。

佐倉高校は、NHKのテレビドラマ「梅ちゃん先生」のロケ地になったように古い校舎をよくのこしています。同校の前身である旧制佐倉中学校の校長を務めたのは山内佐太郎先生で、先生はその後、岡山の関西中学校長をへて、明高の前身の旧制明石中学校の校長になられたとのこと、記念館には山内先生関係の資料が数多く展示しており、思いがけず佐倉と明石との縁を知ることになりました。堀田家屋敷は佐倉藩主の邸宅跡、座敷の「楽」の額の前で記念写真をとりました。順天堂は江戸時代の医学塾と診療所、「順天」とは「天の道にしたがう」の意味とのことでした。

昼はレストランの一室を貸し切り、お魚のフランス料理に舌鼓を打ちながら、全員の近況報告に耳を傾けました。

川村記念美術館では、西洋近代の名画や日本の屏風絵を鑑賞、また屋外で金属廃品を山と積み上げたオブジェに眼を見張りました。

明高を卒業して52年、私たちも70歳になり、どこかに病をかかえて生きている人が多くなりました。しかし、この日だけは明高時代に帰って元氣を取り戻し、昔話に、現状に、そしてこれからについて話す姿から、元氣をもらった方も多かったようです。いま、佐倉高校で見た「朋友有信」の文字を思い出しました。

今年は10月5日(土曜日)に横須賀で開催が決まりました。皆様また元氣な姿を見せてください。



石高校関東同窓会
会費・旧堀田邸

自彊セミナー報告

関関同立など主要大学訪問

オープンキャンパスに128人参加

同窓会自彊セミナー主催の恒例行事「難関大学のオープンキャンパス参加」が平成24年は次のとおり実施され、1・2年生を中心に延べ128人が参加した。

参加者は、大型バスやマイクロバスに分乗して関心のある大学の建物、雰囲気、大学生が企画した催し物などを見て回った。訪問大学の日時、参加者数、引率者は次のとおり。

【関学大】8月4日、21人、
草川会長、伊川常任理事、
東教諭

【関学大↓甲南大】
8月4日、66人、竹内副会長、
福本常任理事、木下教諭

【同志社大↓立命館大】
8月5日、6人、竹内副会長、
東教諭

【大阪市大】8月7日、25人、
今村常任理事、菊池教諭

【関西大】10月27日、10人、
草川会長、竹内副会長、
岸上教諭



関西学院大学



甲南大学



大阪市立大学



関西大学



同志社大学



立命館大学

感動の舞台 永遠に

第21代校長 岡本光弘



三学期の終業式で明高の校歌とともに涙が溢れてきました。

坂道を登っていくと校門のそばの桜が出迎え、グラウンドからは生徒たちの元気な声が聞こえてくる。そんな学園ドラマの世界にあこがれ飛び込んだ38年間の私のドラマ(教員生活)が、三月末に区切りを迎えました。明石高校は、まさに学園ドラマの舞台そのものでした。

淡路の田舎で生まれ育った私にとって、二時間近くバスに揺られ、さらに三十分近く船に揺られた後に着く「明石」は、玄関であるとともにあこがれの地でもありました。その代表校である明高で、教員生活の最後三年間を勤められたことを光栄に思っています。

私が高校に入学した頃、我が国のGDPが世界第二位になり、退職間近な年に長らく保った二位から三位になりました。物質的な豊かさから心の豊かさへ変わりゆく時代に教員生活を送ったことになるのでしょうか。心の豊かさには「感動」が大切であると考えています。生徒たちには「感動のある、日本一の高校生活を送ろう」と述べてきました。生徒たちは実現してくれたものと信じていますし、実は最も感動していたのは私かもしれません。生徒たちの充実した日々を支えていただいたのが自彊会の皆さまのご支援です。自彊会の皆さまとは、役員会、総会、米寿懇親会、県庁自彊会、市役所自彊会、三回生卒寿記念同窓会、六回生喜寿同窓会等多くの会でお出会いし、青春時代に熱く燃えた日々のこと、そしてそ

の後のご活躍の様子を聞かせていただき、そのたびに元気をいただきました。ありがとうございます。今後とも母校明高へのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とご多幸、さらに感動の舞台明高が永遠に輝き続けることをお祈り申し上げます。

一生の財産を胸に

新村晃司



『教える』というこ
とは『教わる』というこ
とは『教わる』というこ

『教わる』ということだ」という言葉があります。この9年間、明高生と関わる中で、私自身が多くのことを学びました。

印象深いのは、同窓会の主催による「先輩訪問」を目的とした東京ツアー(平成17年)や北海道ツアー(平成22年)に引率

教員として参加させていただいたことです。様々な分野で活躍されている本校OBの方々や交流できたことや、同行した生徒達と深く語り合ったことなど大きな思い出です。また平成16年には、海外研修旅行としてオーストラリアのモーリー高校に58、59回生の生徒達と行って参りました。これもまた貴重な経験となりました。

明石高校にはこのように授業や学校行事からは得られない貴重な体験ができる企画が多くあります。「すごい人」に出会ったり、今まで想像しなかった新しい世界を知るといふ体験は一生の財産になります。生徒の皆さんには、そういうチャンスに対して常にアンテナを張り、是非、積極的に飛び込んでいく姿勢を持ってほしいと思います。

私も明石高校で得たことを忘れず、今後に活かしていきたいと思っています。お世話になりました。



六年間を振り返って

植田 好人



教員採用試験に合格し、教師と

して歩み始めた場所がこの明石高校でした。当時、教科指導も儘ならなかった私は、その日の目の前の仕事をこなすだけで一杯でした。そんな私も明石高校の環境へ慣れていく内に、「もっと生徒の為にやってみよう」とアイディアが浮かんでくるようになりました。その取り組みの一つが「学級通信」です。65回生の学年では、担任として一週間に一度の頻度で学級通信を発行し始めました。当初は学習(成績)や進路に関する内容で占められており、生徒にとっては日頃から何度も耳にする説教めいた内容で、きつと退屈なものだったでしょう。そこで、生徒が書いた学級日誌を題材に私がコメントするという、現在のスタイルに変えていきました。これが次第に私と生徒とのコミュニケー

シヨンの場となっていました。義務感や正義感で仕事を行っていた当初の私。学級通信の内容の変化に伴い、私自身も生徒との触れ合いを大切にし、仕事自体を楽しみ、新たな事に取り組み今の自分へと変化してきました。明石高校で一番成長した所だと考えております。それも、明石高校で出会った生徒・職員、全ての方々のお陰であると深く感謝しております。六年間、本当にお世話になり有難うございました。これからの明石高校の発展を心よりお祈り申し上げます。

転任に際して



東 智 津

6年前の春、私は明石高校に着任しました。

会議室の窓から明石海峡大橋が美しく見えたことを覚えています。前任校では育児休暇を3回とり、続けて勤務していないのかと担任を

ようこそ 明高へ!!

4月はお世話になった先生方が明高を去って行かれる淋しさと同時に、新たな先生方との出会いに胸弾む時でもあります。明高は、初代校長山内佐太郎先生の教えである『自彊不息（自ら努めてやまず）』の精神が、90年にわたり受け継がれ、「自分で考え、自分の意志で行動する」ことを大切にする学校です。従って、今流行の「マニュアル」が少なく、一見不親切にも感じられる点があるかもしれませんが、新着任の先生方の経験を存分に活かしていただき、明高に新たな歴史が刻まれることを期待しています。



たいと思ってきました。そして60回生3年、62回生2・3年、63回生3年、66回生1・2年と担任させていただきました。おらかな校風、校内の立派な樹木に代表される素晴らしい環境、衛星講座やオープンキャンパス訪問などの同窓会の手厚い支援などが、新設校出身の私にとっては羨ましく感じられました。しかし、時が経つにつれて、こ

れらを誇りに思うようになりました。明高への思いが強くなっていったのは、明高で出会った全ての方々のおかげです。本当にいい思い出がたくさんできました。ありがとうございました。66回生の皆さんの卒業より先に明高を去ることを心苦しく思います。それぞれの進路希望を達成して来春卒業されることを心よりお祈りしています。

人

事

異

動

☆ 転退任 ☆

岡本 光弘 先生 [校長] (退職)

廣内 潔 先生 [事務長] (退職)

横山 正明 先生 [芸術] (退職)

高須 峰生 先生 [英語] (退職)

黒田 利博 先生 [事務] (退職)

東 智津 先生 [地歴] (退職)

新村 晃司 先生 [理科] (県立西宮高校へ)

植田 好人 先生 [理科] (松陽定高校へ)

丸尾 志津 先生 [情報] (三木東高校へ)

奥 有希 先生 [数学] (県立農業高校へ)

生木 達也 先生 [地歴] (退職)

狭間 崇 先生 [理科] (明石高校へ)

丸野 真衣 先生 [事務] (洲本実業高校へ)

☆ 着任 ☆

濱田 浩嗣 先生 [校長] (星陵高校より)

小原 信博 先生 [事務長] (淡路三原高校より)

横山 正明 先生 [芸術] (明石高校より)

高須 峰生 先生 [英語] (明石高校より)

藤原 香果 先生 [地歴] (明石城西高校より)

前田 浩人 先生 [地歴] (明石城西高校より)

関 利恵子 先生 [数学] (加古川北高校より)

難波 牧人 先生 [理科] (東播磨高校より)

白神 信行 先生 [理科] (新任)

福島 香 先生 [情報] (新任)

林 裕子 先生 [体育] (星陵高校より)

高木 敦史 先生 [事務] (淡路教育事務所より)

橋本 仁美 先生 [事務] (武庫荘総合高校より)

高校における学校間競争が激化する今日、大学の入試結果は中学生の志望校決定に大きな影響を与えます。「明るく楽しい高校生活」だけでは学校が生き残ることはできなくなり、地域の期待も「明るく楽しい」から「希望進路の実現」に重きが変化しています。「より良い進路実現」ができれば、その学校は淘汰される運命を辿らざるを得ない厳しい時代にあります。今回の入試結果を数字でみると、国公立合格者57↓77↓51と、関同立甲5大学合格者163↓194↓156となり、一昨年並みということになりました。少しこの結果を分析するに、「理系中心」の風潮の中で、「文系」の頑張りが目立ったこと、センター出願者数で明高史上最高数を記録したこと、女子の頑張りが目立った(神戸女学院大、神戸親和女子大などは昨年の倍以上の合格者、その他有名女子大へも多数合格)こと、多くの生徒が最後の最後まであきらめずに頑張ったこと、北海道・北見から沖縄まで進学

第65回生学年主任
山中 良 秀

チャレンジ明高!! 24年度進路結果

を決めたことが印象に残っています。65回生の生徒たちは本当によく頑張ってくれました。結果が出た今だから言えることですが、3月になり国公立大学の合格発表があります。当初

は、正直、厳しい結果でどうなるかと不安でした。しかし、生徒は例え前期が上手く行かなくても諦めません。みんな支え合いながら懸命に頑張ってくれました。卒業式後も登校して受験の前日まで頑張っていました。まさに「高校生の鏡」だと思いました。その結果、後期試験で結果が出てきました。私大受験者の中でも、卒業式までできなかった合格を手に入れることができなかった生徒が、卒業式後は連戦連勝という素晴らしい結果を見せてくれました。最後の最後で追い込んできました。最後の最後

まで諦めない大切さ”を体現してくれました。確かに、受験ですから全員が上手く行くということはありません。「あと少し」で涙を飲むことになりました。来年に再チャレンジする生徒もあります。しかし、彼らは必ず来年「サクラ咲く春」を迎えることができると思います。この65回生、多くの生徒が積極的な高校生活を送ってくれました。高校生活としてのあるべき姿を体現してくれました。2年生の時の体育大会3賞独占、滅多に見ることができない羊蹄山の全景見ることができた修学旅

行、野球部近畿大会ベスト4など「何かを持っている65回生」でした。学習面についても部活動で頑張る多くの生徒が授業へも真剣に取り組んでいました。その姿が「みんな最後まで頑張る」という連帯感を作ったように思います。これから大学生・社会人となり、それぞれの場で活躍してくれるでしょう。同窓会の中でも大きな役割を果たしてくるでしょう。学年主任としてそのような生徒に3年間関わったことを誇りに思います。さて、2年後「学区再編」という大きな波があります。大きな変化です。変化はチャンスです。明石高校がより良い学校となるよう、より生徒の「夢」「志」が実現できる場、より良い進路実現」ができる場となるチャンスです。65回生のチャレンジは終わりましたが、これからの「より大きな飛躍」を期待したいと思います。

「チャレンジ明高」
NEVER GIVE UP!!

諦めなければ道は開かれる…

平成23・24年度進路実績表

大学名	23年度	24年度
【私立大学】		
青山学院大		1
多摩美大	4(3)	
武蔵野美大	4(1)	2
早稲田大	4(4)	
駒澤大		2(1)
東海大	3	1(1)
法政大		1(1)
京都外大	1	2
京都産大	2	6
京都女子大	1	2
京都精華大	19(2)	11
京都造形芸大	6(1)	1
同志社大	18(11)	11(4)
同志社女子大	4	2
佛教大	8(2)	4
立命館大	13(5)	11(4)
龍谷大	13(5)	5(4)
大阪経大	26(1)	18(3)
大阪芸大	4	3
大阪工大	10	3
大阪電気通信大	3	6(1)
関西大	41(4)	37(2)
関西外大	4	6
近畿大	31(9)	30(3)
関西学院大	50(9)	27(2)
甲南大	72(6)	70(3)
甲南女子大	6	15
神戸学院大	61	50(4)
神戸芸術工科大	5	8
神戸女学院大	4	9
神戸女子大	8	16
神戸薬大	3	2
松蔭女子学院大	7	4
神戸親和女子大	8	19
武庫川女子大	24	17
その他	127(4)	112(5)
合計	548(70)	514(38)
文部省管轄外合計	4	0
短期大学合計	36	22
専門学校合計	30	48
就職・公務員合計	11	5
【国立大学】		
北海道大	1	
北見工大		1
東京藝術大	1(1)	
富山県立大	1(1)	1
信州大		2
滋賀大		1
愛知教育大	1	
京都教育大	4	
京都工芸繊維大	4	
大阪大	1	2(1)
大阪教育大	2	1
神戸大	3	1
兵庫教育大	1	
奈良女子大	1	1
和歌山大	1	1
鳥取大	2(1)	
岡山県立大	2(1)	3
広島大	6(1)	1
島根大	2	1
山口大	1	1
徳島大	4(1)	1
鳴門教育大	1	
香川大	1	
高知大		1
九州工大	1(1)	
鹿児島大		1
鹿児島大		1
合計	40(6)	21(2)
【公立大学】		
岩手県立大		1(1)
秋田公立美大		2(1)
国際教養大	1(1)	
埼玉県立大		1
首都大東京	1	
石川県立大		1
金沢美術工芸大	7(3)	2(2)
静岡文化芸大		1
愛知県立芸大	2(1)	
京都府立大		1(1)
大阪府立大		1
兵庫県立大	16(2)	11(1)
神戸市外大	1	1
神戸市看護大	2	
島根県立大		2
岡山県立大	2	
尾道市立大	3(1)	1
県立広島大		1
広島市立大	1(1)	1
香川保健医療大		1
高知県立大		1
沖縄県立芸大		1
名桜大	1(1)	
合計	37(10)	30(6)
国公立大学合計	77(16)	51(8)

() 内は過年度生

古豪復活へ

硬式野球部

硬式野球部顧問

角 野 友 昭

伝統ある明石高校野球部の監督として勝つことの難しさを痛感し、試行錯誤の毎日を送っています。

私にとって高校野球とは、人を育てる上で非常に適したスポーツである。自分自身の経験もふまえ考えています。そんな中で勝利も考え、また勉強との両立をなしていくのは高校生にとってたいへんなことだと思います。しかし、この数年の間に少しずつではありますが変化が見え始めました。野球部の生徒の進路実績がかなりあがってきたのがその例で、私としてもとてもうれしく思います。

野球の方では、春季大会において県大会3位、また63年ぶりに出場した近畿大会では、甲子園常連校の智弁和歌山高校を敗り、準決勝で後に春、夏連続甲子園優勝の大阪桐蔭高校と互角にわたりあいました。夏の選手権予選では4回戦敗退と結果はふるいませんでしたが、甲子園出場、古豪復活への手ごたえを少し感じることができました。



しかし、忘れてはならないのがそのような結果の裏にあるのは、明高で学ぶ生徒の日頃の生活の姿勢だと思います。私自身は常に何事に対しても「考えよう」「継続しよう」とこの2つの言葉を投げかけています。その2つのことを確実に実践しているからこそ現在があるのです。いつも明石高校野球部を応援して下さい。野球部OB、同窓生、地域の方々、ありがとうございます。これからも甲子園出場を目指すとともに今後生活していく上で心の大きい立派な人間づくりを私自身微力ではありますが頑張りたいと思います。

百人一首かるた同好会の発足について

百人一首かるた同好会顧問

土 居 浩 子

百人一首かるた同好会

「先生、私は競技カルタの個人戦で、全国総合文化祭まで出て、素晴らしい経験ができました。ただ団体戦で、他校が一致団結して戦う姿がうらやましかった。私はかるたを個人的なものではなく、明高で仲間とともに打ち込むものにしたいです。どうか同好会を作ってください。お願いします。」

かるた同好会は、二年前、当時一年生だった藤澤彩香さん(65回生・平成25年3月卒業)による一言をきっかけとして発足しました。彼女は幼い頃から小倉百人一首の競技カルタを習っており、二年時、三年時での活躍も期待されている生徒でした。

生徒でした。

同好会を作ることは、本来簡単なことではありません。場所や道具の確保、大会出場時にかかる経費など、問題もあります。しかし、顧問には藤澤さんの担任だった本城先生も入って下さり、道具のカルタは、入部希望者達がお金を出し合い購入しました。また畳は、体育科によるご厚意で、余っている分を貸して頂くことができました。カルタの練習では、田子の浦会の苔口先生がボランティアで指導してくださったことを、部長の藤澤さんが中心となって教え合いながら、少しずつ覚えていきました。カルタ同好会は、明高内外の先生方と自彊会の皆様、温かいご理解と援助をいただいたおかげで発足できたのです。

大好きなカルタを、仲間と一緒に練習できる環境が整ったおかげで、部長の藤澤さんの実力はめきめきと伸びました。二年時には、近畿大会および福島県で行われた全国総合文化祭にも出場し、同じく三年時にも富山県での全国総合文化祭に出場することができました。三年間、遠方への大会にもかかわらず、不安なく出場し、競技に集中できたのは、自彊会からのご支援をいただいたおかげです。本当にありがとうございます。

また、彼女以外の部員達にも、素晴らしい成長が見られました。

カルタは、「畳の上の格闘技」と表現されるほど激しい競技ですが、審判はあまり介入しません。同時に札を取った場合でも、あくまで競技者同士が話し合っで決断します。つまり、部員達は、相手

への礼節を失うことなく、自分自身で考え判断し、対応することを必要とされたのです。このような経験を重ねながら、仲間とともに切磋琢磨できたことにより、部員達は、窮地に立たされても、礼節と冷静さを忘れず、目標にむかって困難を乗り越える精神力を身につけることができました。

同好会の顧問として、生徒達の成長の輝きを目の当たりにできたことを、本当に嬉しく思います。自彊会の皆様には、二年前の発足から現在まで、生徒達のチャレンジ精神や可能性を温かく見守り、惜しみない援助をくださったことを、この場を借りて感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

同好会発足メンバーはこの三月に卒業しましたが、現在では二年生三名、一年生七名が活動しております。卒業生の勇姿を心に焼き付け、彼らもまた全国大会を目指して練習に励んでいる最中です。また、今年度は、兵庫県総合文化祭の開会式で、かるた部門の兵庫県代表校として部門紹介プレゼンテーションをとめます。

伝統ある明高の同好会として認めていただいたことに感謝と自覚を忘れず、今後も精進してまいりますので、これからも温かい応援を宜しくお願いします。



会則改正の趣旨

明石中学校同窓会（自彊会）は、創立10年にあたり山内佐太郎校長を会長として発足、会則が定められました。戦後、学制改革によって明石高等学校として再出発した時点で、同窓会会則の「中学校」を「高等学校」に変え、内容・表現ともそのまま継承、その後、部分修正をしながら今日に至っていました。会員の皆様から、「わかりにくい」とのご指摘もあり、「会則検討委員会」を設け、「本部役員会」・「理事会」において約1年をかけ慎重審議をおこないました。会則改正の規定に則り、昨年5月の総会において「新会則」が承認されましたので、以下に全条文を掲載し、会員の皆様にお知らせいたします。

明石中学校・明石高等学校同窓会（自彊会）会則

（名 称）

第1条 本会は、明石中学校・明石高等学校同窓会（自彊会）と称する。

（目 的）

第2条 本会は、会員相互の親睦をはかり、母校の発展に寄与することを目的とする。

（会 員）

第3条 本会の会員は次のとおりとする。

(1) 通常会員

① 明石中学校・併設明石中学校・明石高等学校を卒業した者。

② 上記学校に1年以上在学した者で、本部役員会の承認を経た者。

(2) 準 会 員 明石高等学校在校生

(3) 特別会員 明石高等学校旧・現職員

（本部及び支部）

第4条 本会は、本部を明石高等学校内に置く。

2 本会会員多数の地域・職域等には理事会の承認を経て、支部を設けることができる。

（事 業）

第5条 本会は、目的を達成するため、次の事業を行なう。

(1) 会員相互の親睦

(2) 会報・会員名簿の発刊

(3) ホームページの作成と管理

(4) 母校の後援

(5) その他必要な事項

（役 員）

第6条 本会に次の役員を置く。

(1) 会 長 1名

(2) 副会長 若干名

(3) 常任理事 若干名

(4) 監査 2名

(5) 学年理事 各学年1名

(6) 支部長 各支部1名

(7) 幹事 各クラス2名

（役員の選任）

第7条 常任理事及び監査は、総会において通常会員の中から選出し、会長及び副会長は常任理事で互選する。

2 学年理事は、幹事で互選する。

3 支部長は、支部において決定し、会長に届け出る。

4 幹事は、卒業時に、各クラスで選出する。

（役員の職務）

第8条 会長は、本会を代表し、会務を統轄する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

3 常任理事は、会長の指示により本会の会務を処理する。

4 監査は、本会の会計及び会務を監査する。

5 学年理事は、理事会と同期会との連携を緊密にする。

6 支部長は、理事会と支部との連携を緊密にする。

7 幹事は、学年理事を補佐し、各学年同期会の運営にあたる。

(役員任期)

第9条 役員任期は2年とする。ただし再任は妨げない。

2 欠員補充による役員任期は、前任者の残任期間とする。

3 役員は、任期満了においても、後任者が選任されるまでの間は、その職務を行わなければならない。

(顧問)

第10条 本会に顧問を置くことができる。

2 顧問は、会長が委嘱する。

3 顧問は、本会の運営について会長の諮問に応ずる。

(事務局)

第11条 本会の事務局は、明石高等学校内に置く。

2 事務局に事務局長及び事務職員を置く。

3 事務局長及び事務職員は、本部役員会の承認を経て、会長が任命する。

(総会)

第12条 定時総会は、年1回会長が招集する。

2 臨時総会は、理事会において、その必要を認めた時、会長が招集する。

3 総会は、次の事項を議決または承認する。

(1) 会則の制定又は改廃

(2) 事業計画及び予算

(3) 事業報告及び決算

(4) その他、理事会において必要と認めた事項

(本部役員会)

第13条 本部役員会は、会長、副会長、常任理事（以下「本部役員」という）及び監査で構成し、必要に応じ会長が招集する。

2 本部役員会は、次の事項を審議する。

(1) 理事会に付議すべき事項

(2) その他、会長が必要と認めた事項

(理事会)

第14条 理事会は、本部役員、学年理事、監査及び支部長で構成し、必要に応じ会長が招集する。

2 理事会は、次の事項を審議する。

(1) 総会に付議すべき事項

(2) その他、会長が必要と認めた事項

(表決)

第15条 会議の議事は、出席者の過半数で決定し、可否同数の時は、議長が決定する。

(会計)

第16条 本会の会計は、会費・寄付金及びその他の収入をもってあてる。

(1) 会費は、年額2,000円とする。

(2) 基金は、総会の議決を経て、設けることができる。

(会計年度)

第17条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年の3月31日に終る。

(補則)

第18条 本会則に定めるもののほか、本会の運営に関し、必要な事項は本部役員会に諮り、内規で定める。

附 則

(施行期日)

1 この会則は、平成24年5月26日から施行する。

(明石中学校・明石高等学校同窓会会則の廃止)

2 明石中学校・明石高等学校同窓会会則（昭和23年制定）は、廃止する。

(3月31日判明分)

佐藤	榎本	戸田	岩田	和田	佐藤	高橋	伊藤	福井	中尾	高校	櫻井
賢	恭	夫	子	豊	生	雄	哉	宏	和	角	藤
迪	洋	一保	藤本	藤	角	藤	藤	井	裕巳	康治	井

ご冥福をお祈り致します。

小柴 智弘(高64回)
櫻井 拳人(高65回)

兵庫県庁支部
田中 敬一(高26回)

神戸市役所支部

明石市役所支部
前田 豊(高29回)

淡路支部

東京支部
浜口 臣邦(高5回)

神戸市垂水支部

美術科支部
鷺森 智美(高38回)

事務局
木下 裕一(高15回)
吉田 真司(高21回)
本城紀代子(高25回)
寺口 吉行(高34回)
角野 友昭(高42回)

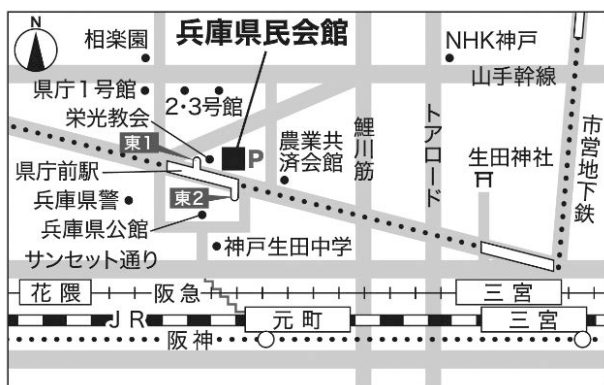
学校・美術科創立記念美術展のご案内

明石高等学校創立90年と美術科創立30年の節目に、記念事業として「美術展」を企画しました。地元では「美術科同窓会展」を過去4回開催いたしておりますが、東京での開催はこれが初めてとなります。地元の皆様は勿論、首都圏在住の皆様にもこの機会に東京会場に足を運んでいただきたく、ご案内申し上げます。

兵庫会場

(兵庫県民アートギャラリー 兵庫県民会館 2F)
8月27日(火)～9月1日(日) 10:00～19:00
(最終日は 10:00～15:00)

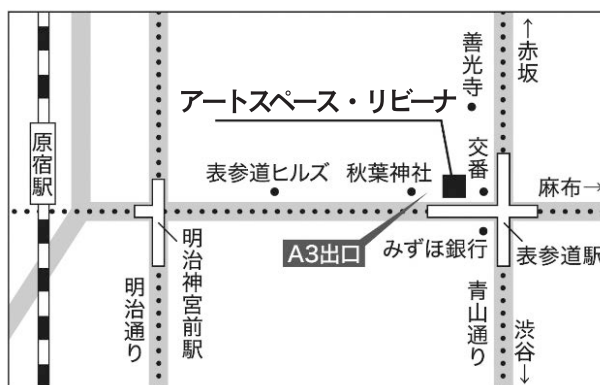
JR元町駅下車徒歩7分、
地下鉄県庁前駅下車東1・2番出口からすぐ



東京会場

(アールスペース・リビーナ 表参道ビル 4F)
11月12日(火)～11月17日(日) 10:00～19:00
(最終日は 10:00～15:00)

銀座線、半蔵門線、千代田線、
表参道駅A3出口からすぐ



編集後記

昨年10月、65歳の男3人がサラリーマン卒業記念修学旅行として、北米大陸横断ドライブに出かけた。サンフランシスコでレンタカーを借りニューオリンズ、フロリダからナイアガラ瀑布を経由してニューヨークまで約9000kmのドライブ。

中学生時代に熱中して見ていたTVドラマ「ルート66」をたどるのがテーマであったが、現在R66はヒストリックルート66と呼ばれ、観光用(?)に僅かに残っているという現状で、実際には主としてインターステーツ(無料高速道路)をひたすら走り、その沿線を観光しながら適当な町でモーターに飛び込んで泊まる毎日という旅であった。慣れない右側通行、早口の南部なまり、誤ってゲートを進入してしまっただけでペナルティで屈強な警官に追い返されるなどハプニング続きの3週間だったが、ハリケーン・サンディが上陸する直前にNYを脱出することができた。とにかくアメリカ合衆国は大きい、というのがこの旅の印象である。見渡す限り延々と続く一本道、無尽蔵にも思える広大な国土を前にして、約70年前この国と戦争を始めた際に日本人は

この偉大さを実感していなかったのかと素朴な疑問がわいた。

近年、若い人たちは海外への興味が少なくなってきたと聞くが、物見遊山でもいいから状況が許す限り海外に出かけることを奨励する。我々リタイアした年配者にとって旅先で遭遇する対象への感激は若い人の半分以下かと我ながら寂しい限りであるが、好むと好まざると益々国際化する世界で生きていく現役の人たちや、これから社会に出て行く人たちが海外へ出て世界の国々や人々を体感することで視野を広げるのは、これからの人生にとって意味のあることと考えます。

ともあれ今年は学校創立90周年、母校の歴史と将来に目を向けるとともに旧交を温める機会にしたい。多彩なイベントが企画されており、友人と誘い合って参加することで学年同窓会やミニ同窓会などの計画・開催のきっかけにしたいだけだと思います。

会報21号の校正を終え、無事校了と肩の荷をおろしています。今回も盛り沢山の情報を会員の皆さんへ届けることができたことはひとえに原稿をお寄せいただいた方々のご協力と心より感謝いたします。

また、誌面の写真の一部を提供いただいた北村写真室殿にも感謝いたします。

(卓)



竣工式



地鎮祭



書庫



応接室

山内記念図書館



昔も

発行：県立明石中学校
県立明石高等学校
同窓会（自彊会）
明石市荷山町1744番地
078 (913) 6554
印刷：(有) 木下ブンセイ出版印刷